

# 郷土資料の 散歩道

図書館郷土資料室

☎ 21-6111 内線6201

## 直江石堤改修の絵図

文化九年の改修を描いた絵図

今回は洪水で決壊した直江石堤の改修工事を描いた絵図を紹介します。市立米沢図書館の「林泉文庫」の中の絵図で、正式名称は「谷地河原御手伝川除絵図」です。直江石堤のある堤防は谷地河原堤防と呼ばれていました。

この堤防は、米沢城下を洪水から守るため直江兼続が築いたとされる重要な堤防ですが、豪雨で決壊することもあり、寛永八年（一六三一）、同十七年、寛政十年（一七九八）には大規模

な改修工事が行われました。文化九年（一八二二）も七月九日の大雨によって決壊し、すぐさま改修工事が行われ、完成後にこの絵図が作成されました。

## 武士が各組ごと分担して改修

絵図は縦八〇センチ、横一七九センチと大きく、鮮やかに彩色された美しい絵図です。改修された石堤は赤で描かれ、その下には「侍組高家衆・長サ四拾四間」、「馬廻組・長サ三十九間」等と工事を担当した家臣団の名前と分担距離が記されています。こうした堤防の工事は「御手伝」と称し、家臣（武士）の手によって行われました（武士がお金を出し人足を雇う場合もあった）。

武士の延べ動員数は約一万二〇〇〇人を数え、九月二十六日に完成、二十八日には前藩主の上杉鷹山が見学しました。

## 鷹山感謝のエピソード

完成した石堤を見学した鷹山は、家臣の手で積まれた石堤を足で踏むのは躊躇されると、まず手で石堤に触れ感謝を示し、その後登ったと伝えられます。武士の手伝いで完成した橋を渡る際に馬から下りて渡った話や、家臣が開墾した田畑を見学した際に鷹山自ら



▲谷地河原御手伝川除絵図（部分）

石堤は場所によっては二重、三重に築かれた。その高さは約5尺（約1.5メートル）。石堤の上部（西側）には、御普請小屋も描かれている。絵図の作者は岩瀬三左衛門。岩瀬家は代々米沢藩の御用絵師を勤めた。

家臣に酒を注いだ話と共に、いかに鷹山が家臣の働きに心から誠意を示したか、鷹山の謙譲・謙遜の心を示すエピソードの一つです。

この絵図は直江石堤（市指定史跡）の変遷を記した貴重な資料であると共に、先人が治水に力を注ぎ今の米沢があることを教えてくれる大切な資料といえます。

## 林泉文庫とは

郷土の歴史家として有名な伊佐早謙が集めた書籍・資料群。林泉寺町の自宅書庫の蔵書を収め、町名に因んで「林泉文庫」と称した。図書館では706点、1322冊を所蔵。「邑鑑」「管見談」「養蚕手引」「黒井堰絵図」等など、米沢の歴史を調べる上で大変貴重な資料を多く含む。